みんなが大好き！そう思える瞬間がHappy

今回ご紹介する小山智子（こやま・ともこ）さんは、“書”の分野でも新たな可能性を見出し、デザインの幅を広げているグラフィックデザイナーさんです。今回は、彼女の作品も併せてご紹介しますので、美しい墨の世界をご堪能ください！

フォトグラファー／K's　山本 聡子

Profile
DESIGNとむすび／グラフィックデザイナー　小山 智子

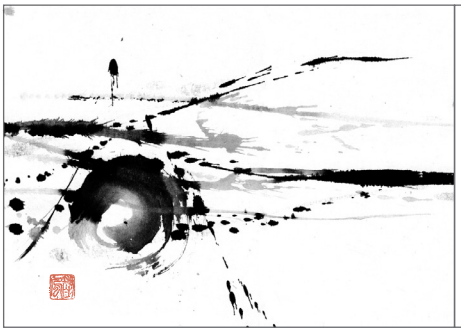
佐賀県鳥栖市出身。商業高校卒業後、印刷会社等を経て福岡のデザインプロダクションでパッケージデザインに携わる。その後、鹿児島にてディレクター業を学び、2005年帰福とともに「DESIGNとむすび」を設立。2006年、デザイン墨道を本格的に始め、現在は書家・智風として個展活動も行う。

「下手に書け」平松先生の衝撃の一言

小山さんが“書”と出会ったのは、最初に務めたデザイン事務所でのこと。パッケージデザイン部門で、先輩の書く筆文字がパッケージの中で躍動する面白さに魅かれ、その好奇心はやがて、平松聖悟先生のデザイン墨道（ぼくどう）「聖墨会」に入会するきっかけにつながります。「平松先生と言えば、デザイン業界でも一時代を築いた方。その先生から教えていただけるなんて、すごく光栄だと思いました。ただ最初は“下手に書け”と言われ、とても衝撃を受けました。先生が教える『デザイン墨道』はきれいな文字を書く必要は全くなく、自分が感じたままに文字を表現する世界なので、まずは左手で書いたり、逆さから書いたり、いわゆる『お習字』の概念を崩すことから始めるんです」それって、楽しそう！私が小学生の時に通ったお習字の退屈なことといったら…。「そうですよね(笑)。デザイン墨道は、文字を一度崩して組み立て直す感じです」聖墨会に入会して6年、小山さんは“書”の奥深さにますます傾倒していると語ります。

作品は、人に見られて初めて価値を得る

今年4月、初の個展を開いた小山さん。作品はどれも、しなやかで凛としていて「あ、小山さんっぽい」と思うものばかり。「私、個展を開いてみて、個展をする意味が初めて分かったんです。作品は、“いいね”とか“よくないね”とか、他人に評価されて初めて価値を得るんですよね」…なるほど！でも、書家はアーティストだから、クライアントに求められるものを作るグラフィックデザイナーとの切り替えが難しくないですか？「いえいえ、そこは多分、自分を見るか相手を見るかの違いだと思うから。書は自分と向き合うことが大事だし、デザインは誰かのために考えることが大事で、どちらか一つに偏るのって、バランスが悪いと思いますよ(笑)」あ！そのバランス感覚のよさが小山さんの紡ぎだす文字のしなやかさに表現されるんだ〜、と妙に納得。

紙も筆も、全部100円ですよ(笑)

小山さんにとってデザイン墨道とは、美意識を形にする行為であり、墨のかすれやしぶきがとても美しいと感じるとおっしゃいます。使われている道具にもさぞかしこだわりがあるのかなと思いきや「道具？紙も筆も、全部100円ですよ(笑)」とあっけらかんと答える小山さんが、ますます魅力的に感じられます。最後に、小山さんにとってHappyな時間について尋ねてみると「つい先日、聖墨会の作品展があって、みんなと飲みに行ったんです。その時、みんなのことが大好きだと思えて、すごく幸せでした」もともと屋号の“とむすび”には、智子（TOM）さんがいろんなものを結びたいという願いが込められているのだそう。理想のグラフィックデザインを追い求めつつ、いつかは大きな屏風に文字を書いてみたいと語る小山さん。グラフィックデザイナーとして、書家として、小山さんの結ぶ輪が今後どんな大物を巻き込んでいくのか、ますます楽しみです！